

**高等学校等における
オンライン国際交流の事例**
～姉妹都市提携に基づく国際交流の事例



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

海外の教育機関との連携による取組み【北海道教育委員会】

道教委とカナダ・アルバータ州教育省が主催する高校生の交換留学事業において、生徒の相互派遣が実施できなくなったため、代替事業として、派遣を予定していた生徒9名を対象に、交換留学のパートナーとビデオ会議ツールを活用したオンライン交流を実施した。

【プログラムの内容】

- ・ホスト期間とゲスト期間を設定し、それぞれ4週間を1単位として、平日と週末の週2回、全体で16回のオンライン交流を実施。
- ・使用言語は、英語及び日本語。基本的には、ホスト側の母国語を交流言語として使用。
- ・北海道の生徒は、平日は学校で、休日は生徒の自宅で交流。学校における交流では、北海道の教員が双方の生徒のコミュニケーションをサポート。



【工夫した点】

- ・アルバータ州教育省と協力して交流テーマのリストを作成。生徒がリストから事前にテーマを選択することで、コミュニケーションの活性化を図った。
- ・道教委とアルバータ州教育省の職員がファシリテーターとなり、プログラム開始前にパートナー同士の事前交流会を実施。円滑な交流の実現に向けて、生徒の不安や緊張を取り除く機会を設定し、良好な人間関係の構築を図った。



【今後の課題】

- ・参加生徒及び担当教員を対象としたICT活用スキルの向上に資する研修の実施
- ・生徒の資質・能力の育成に向けた交流内容の検証及び事業の改善



【経緯】

1980（昭和55）年10月	北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携の調印式を施行。
1994（平成6）年6月	北海道・アルバータ州高校生交換留学促進事業に係る参加生徒の募集を開始。（以降、各年5～10人を相互に派遣。2019年までに208名を派遣）
同年10月	新型コロナウイルス感染症の影響により、2020（令和2）年度の交換留学事業の中止を決定。同時に、代替事業として、オンライン交流の実施を決定。
同年11月～12月	第1期オンライン交流プログラムを実施。
2021（令和3）年1月～2月	第2期オンライン交流プログラムを実施。

他機関との連携による取組み【岩手県立不來方高等学校】

岩手県と中国雲南省の青少年相互派遣プログラムが中止になったため、その代替として、2020（令和2）年12月9日 15:00～17:00の2時間、本校外国語学系中国語コースの生徒16名及び同コース前年度の卒業生2名と中国雲南師範大学附属中学校及び昆明市第一中学校の生徒21名がオンラインの交流を実施し、中国語でのテーマごとの紹介と質疑応答及びパフォーマンスなどにより、国際理解を深めた。

【プログラムの内容】

- ・交流テーマ：地域の魅力、学校と学校生活、文化と娯楽、将来の夢
- ・パフォーマンス：中国古詩暗唱、中国民謡合唱、中国伝統舞踊など
- ・本校生徒の紹介を聞いて、「岩手は素晴らしい。とても行きたくなった。」など好意的な感想があった。

【工夫した点】

- ・先方と事前にオンラインで打ち合わせたり、プログラムの内容を決めたり、メールでプログラム内容の調整などした。
- ・中国語での交流なので本校生徒の準備と練習を十分に行った。

【今後の課題】

- ・本校生徒の語学力の更なる向上が必要。
- ・オンライン交流用ソフトを使いこなす必要がある。



【経緯】

2013(平成25)年	岩手県は中国雲南省と「友好交流協力協定」締結。
2015(平成27)年	年一回お互いに中高生を相手国に派遣し、青少年交流開始。
2019(令和2)9.15	岩手県国際室及び県教委の担当者が来校し、岩手県と雲南省の青少年オンライン交流について協議。
2019(令和2).12.9	岩手県と雲南省の青少年オンライン交流実施。

他機関との連携による取組み【岩手県立不来方高等学校】

台湾国立花蓮高級中等学校が令和2年4月に岩手県への訪問を希望し、不来方高校との学校交流を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により中止となった。その代替として、2020年11月20日13:00～15:00（日本時間）の2時間、花蓮高校の生徒26名と本校外国語学系2年生の生徒35名がオンラインの交流を実施し、英語と中国語でのプレゼンテーション・質疑応答を通じて国際理解を図った。

【プログラムの内容】

- 1 グループ・プレゼンテーション①（花蓮高校4グループ・不来方高校8グループを2つのチームに分けて2会場で開催）
- 2 グループ・プレゼンテーション②（不来方高校のグループが入れ替わり、セッション①と異なる相手に対して発表を行う）
 - 台湾・岩手について ●花蓮・盛岡について ●台湾・日本の高校生活について ●台湾・日本の若者文化について 等
- 3 質疑応答・交流セッション（フリートーク）

【工夫した点】

- ・両校の担当者間で、オンライン、メールでの連絡を密に行った。
- ・事前に双方の生徒1人ひとりの自己紹介カードを交換した。
- ・2つの会場で生徒を入れ替えることで、全員が2回ずつ発表できるようにした。

【今後の課題】

- ・文化の「紹介」に終わらない「交流」を可能にする「やり取り」の力の伸長。
- ・オンライン交流用ソフトの活用法。



【経緯】

平成23(2011)年	岩手県が日本政府観光局のビジット・ジャパン台湾訪日教育旅行促進事業に参画。以来、日台教育旅行交流会への参加や県単独及び北東北三県による招請事業により、台湾からの訪日教育旅行に取り組む。
平成30(2018)年10月	招請事業により、台湾国率花蓮高級中等学校の学校長を岩手県に招請した。
令和2(2020)年4月	花蓮高校の生徒が岩手県を訪問し、不来方高校との学校交流予定であったが新型コロナウイルスの影響で中止となった。
令和2(2020)年11月20日	オンラインによる国際交流を実施。

姉妹都市提携を活用した取組み【鳥取県立境高等学校】

鳥取県が姉妹結縁に関する協定を締結している韓国江原道との児童生徒交流について、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により訪日・訪韓による交流が実施できなくなったことを受け、県観光交流局交流推進課や県教育委員会の支援のもと、Zoomを活用して、韓国語を学んでいる境高校生徒と江原道高校生のオンライン交流会を約1時間開催。境高校生徒は韓国語で、江原道高校生は日本語で、自作スライドを用いたプレゼンテーションを行って、それぞれの地域を紹介するとともに、日韓文化等について意見交換、質疑応答を実施。

【プログラムの内容】

- ・境高校2名、江原道側高校2名の4名からなる10グループを編成。
 〈オンライン交流会の境高校参加者数及び江原道側参加高校名並びに参加生徒数〉
 境高校 20名
 江原道 21名（三一高校（2名）原州女子高校（8名）江陵第一高校（11名））
- ・生徒達は事前に、自分達のふるさと及び生活地域についてのプレゼンテーションシートを母語で作成。
- ・江原道教育庁スタッフがファシリテートし、使用する言語が偏らないよう相互に発表・質問・やり取り。

【工夫した点】

- ・クイズ形式を主体としたプレゼンテーションにより、互いのやり取りがより活発になるよう配慮。
- ・本番で質問したい事項を予め双方で交換しておき、ペアワークによる効率的なやり取りと交流を補助。

【参加生徒の感想】

- ・江原道の生徒の日本語のレベルが素晴らしいと感じ、自分ももっと韓国語を勉強しようと思った。
- ・相手の韓国語を完全に聞き取れないこともあったが、相手の気持ちを理解しようとする気持ちが、言葉の壁を越えたと思える瞬間を感じることができた。

【今後の課題】

- ・継続的な交流のための県教育委員会等の支援体制整備及び学校の負担軽減。
- ・特色ある高校教育活動として広く情報を発信するとともに、県内他校と連携する等の体制構築。

【経緯】

1999（平成11）年	韓国ソウル、プサン等への研修旅行を開始（2年生）
2009（平成21）年	韓国語選択者やサッカー部希望者による韓国高校との交流を開始
2015（平成27）年	隔年で、香港または台湾、韓国との高校生相互交流を開始
2020（令和2）年9月	本年度韓国研修旅行の中止を決定 → 県教育委員会による韓国江原道とのオンライン交流企画を受入
2020（令和2）年11月	江原道高校生とのオンライン交流を実施 ※県教育委員会が企画・運営を支援





友好都市提携による取組み 【高知県立室戸高等学校】

室戸市が提携している友好都市（オーストラリア ポートリンカーン市）への訪問が中止になったため、その代替として、Google Jamboardを用いた異文化理解のための情報交換、手紙交換、ビデオ会議ツールを用いての交流を行った。対象は本校生徒と、ポートリンカーン高校で日本語の授業を選択している生徒である。

【プログラムの内容】

- ①日本のお弁当、給食について説明するスライドをGoogle Jamboardで作成し、送付（2年生5名）
- ②ポートリンカーン高校の生徒が授業の一環で作ったキャラ弁について書いた手紙を受け取る（ポートリンカーン高校9,10年生28名）
- ③②で受け取った手紙への返信（1～3年生60名）
- ④ビデオ会議システムを用いた交流（1）自己紹介、地域の紹介など（1年生9名）
- ⑤ビデオ会議システムを用いた交流（2）自己紹介、地域の紹介など（1年生9名）

【工夫した点】

○教科と関連した取組み

交流のために特別な準備をするのではなく、授業での学びを交流に活用した。

- ①②：日豪それぞれの学校が教科書や異文化理解の授業で学習した内容について共有した。
- ③：活動を通して英文手紙の書き方を学び、その知識を活用して授業で手紙を書く活動を行った。
- ④⑤：「産業社会と人間」等で行った地域探究活動で訪れた場所や地域の魅力を説明するポスターを作成し、活用した。

【今後の課題】

- ・同じ相手とのメールの交換→ビデオ会議システムでの交流といった流れを作り、生徒のモチベーションアップにつなげたい。

【経緯】

1991(平成3)年3月	室戸市とポートリンカーン市(オーストラリア)が友好都市提携を締結
1992(平成4)年10月～	両都市の中高生が互いの市を訪問する交流事業が始まる。(室戸市は市の友好交流協会が企画、運営)
2020(令和2)年	新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた訪問の中止が決定
2020(令和2)年8月～	ポートリンカーン高校とのオンラインでの交流を開始

他機関との連携による取組み【佐賀県立白石高等学校】

コロナ禍の中、韓国全羅南道教育庁から「2020グローバル全南オンライン国際交流事業」による交流の提案があった。かねてより佐賀県が全羅南道と交流協定を締結していたことから、佐賀県内の高校との交流の希望があり、本校が選定され、全羅南道玉果高校とオンライン交流会を実施した。本校は、2つのキャンパスによるキャンパス制の学校であり、令和2年12月17日に商業科キャンパスの生徒13名と、12月23日に普通科キャンパスの生徒8名と交流を行った。また、佐賀女子短期大学で韓国語を学ぶ学生に交流サポーターとして生徒の交流に協力してもらった。

【プログラムの内容】

- ・商業科キャンパス（12月17日）普通科キャンパス（12月23日）
 全体交流：学校長挨拶、学校紹介、地元地域の紹介、自己紹介
 個別交流：自己紹介、生活や興味のあることの情報交換

【工夫した点】

- ・佐賀県の高校生は、貸与された学習用PCを一人一人利用できることで、個別交流の時間を多くとって、個別に様々な内容の交流ができるようにした。
- ・商業科キャンパスは3年生で韓国語の授業を選択できるので、1・2年生にとって授業選択を考える機会となるようにした。
- ・佐賀女子短期大学で韓国語を学ぶ学生に交流サポーターとして通訳や交流の補助をしてもらった。交流の支援と同時に、高大連携のモデルとして大学側にも積極的に協力していただいた。



【今後の課題】

- ・課題解決の共通テーマを設定し、お互いの学校で活動し、その成果を共有するような交流会としていきたい。
- ・高大連携のモデルとなるよう、今後も大学との連携を進めていきたい。

【経緯】

2020年 7月	韓国全羅南道教育庁よりオンライン交流会参加の打診
2020年10月	交流校の決定（韓国－玉果高校 日本－白石高校）
2020年10月～12月	参加生徒の募集 交流会の企画検討、準備 使用機器のアカウント等の諸申請 大学への協力依頼



Society5.0の時代を生き抜く人材育成を目指した学校交流による取り組み 【多久市立東原彦舎中央校】

Society5.0の時代を生き抜く人材の育成に向け、価値観の異なる他者と協働して未知の問題に対して最適解を構築できる資質・能力の育成を目指し、英語を共通言語とした韓国全羅南道との学校間交流を実施。今年度は、それぞれの国における新型コロナ感染症対策もあり、ビデオレターを中心としたメッセージのやり取りを重ねた。今年度は本校の9年生（14名）と7年生（85名）が参加。両校の視聴可能な時間を活用した意見交換を行った。

【プログラムの内容】（予定を含む）

- ・事業名 2020グローバル全羅南道オンライン国際交流事業『Hello,e-Fiends!』
- ・交流対象 中国、ベトナム、日本など、18か国50校（本校は韓国のサムゲ中学校と交流）
- ・期間 第1期：2020年8月～2021年2月
- ・交流プログラム
 - ①相互の文化紹介…日本、韓国の双方から自国の文化や学校の様子について紹介
 - ②プロジェクト活動…「持続可能な世界のために私たちができること」をテーマに共通理解と共通実践
 - ③オフライン交流 …直接訪問し対面による交流

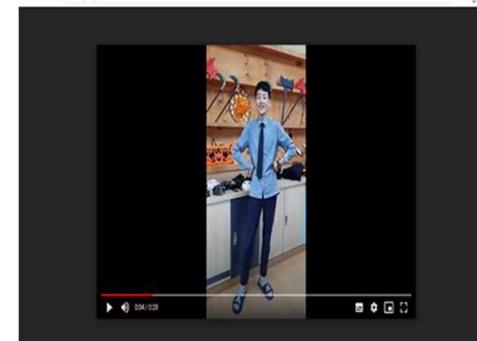


【工夫した点】

- ・今年度は、新型コロナ感染症拡大防止の観点から、休校や分散登校があったため、共有できる時間の確保が難しかった。そこで、まずビデオレターをやり取りすることによる交流からスタートした。
- ・生徒間のみならず、教員も英語の授業ビデオを共有し、英語の指導法についての意見交換を実施した。

【今後の課題】

- ・定期的な交流の機会を蓄積していくこと
- ・個人－個人の交流の場を設定すること
- ・交流計画に基づき、今後、プログラム②、③の充実を図ること
- ・義務教育学校の特性を生かし、本校の5、6年生にも参加の機会を広げること



【経緯】

2011（平成23）年 1月	佐賀県と全羅南道が友好交流協定書に署名
2014（平成26）年 6月	佐賀県教育委員会と全羅南道教育庁が教育交流についての覚書（MOU）を締結
2018（平成30）年11月	佐賀県教育委員会教育長が全羅南道ラオン小学校、ポンファン高等学校等を訪問
2019（平成31）年 4月	全羅南道教育庁教育監が多久市立東原彦舎西溪校等を訪問
2020（令和2）年 7月	全羅南道教育庁の企画及び同庁シニアレクチャーの仲介により本校とのWeb交流がスタート

その他（姉妹友好交流協定締結の都市との交流）による取組み【鹿児島県立鶴翔高等学校】

阿久根市の台湾派遣交流プログラムが中止された代替案として、台湾の国立善化高級中学とネットを通じた交流プログラムを実施した。両校の生徒の自己紹介をSNSにアップロードし、お互いに観覧できるシステムで交流を行った。互いに交流する相手を事前に設定し、その相手の自己紹介を視聴した後、クリスマスカードや、グリーティングカードを交換した。互いの自己紹介動画には交流相手への質問もあり、お互いの共通点や好みを知るきっかけとなった。

【工夫した点】

- 自己紹介動画を相手が理解しやすいように編集した。
- 撮影時に、クリアな音声になるようノイズの少ないマイクを使用した。
- 交流相手の自己紹介の動画に、コメントを投稿し、観覧済みであることを知らせた。
- 自己紹介の作成にあたり、ALTと発音練習を行うことで、生徒が自信をもって動画作成に取り組むことができた。

【今後の課題】

- 単年度毎でなく、在学中3年間を通じた交流ができればよい。また、卒業後も生徒同士が互いに交流が継続したらなおよい。
- Web会議ツールを使用し、双方向通信の交流を考えているが、生徒自身の英語即興力をある程度向上させる必要がある。
- 教室でディスプレイを使用したオンライン交流ができるよう環境（設備）整備の必要がある。



【経緯】

2017年 4月	阿久根市と、台湾台南市善化区とで友好交流協定を締結。
2018年 10月	鶴翔高校から国立善化高級中学へ生徒を派遣し、ホームステイ・異文化交流を実施。
2019年 10月	国立善化高級中学からの派遣生徒を受け入れ、ホームステイ・異文化交流を実施。
2020年 11月	両校の生徒による自己紹介動画の作成、オンライン交流。グリーティングカードの交換。